

令和三年 第二十期くまもと俳句ポスト

第二十期開函

日本伝統俳句協会副会長 岩岡 中正 選

特選

城裏の笹子の径さやこ みちとなりにつけり

熊本県熊本市

山崎 綾子

【講評】

「笹子」は、「笹鳴き」ともいって、冬の鶯のこと。冬は山中から里の藪へ下りてきて「チャツチャツ」と鳴きます。作者は四季折り折りのお城を訪ねているのでしよう。耳ざとく笹子のかわいい声に足をとめている姿が目に見える、静かな一句です。

わが輩通り賞

蕎麦刈そばかりや阿蘇はのさりの里日和

熊本県熊本市

佐藤 誠吾

入選

秋晴れにつづみうちたる音高し

熊本県熊本市

西田 光子

日当れば八雲の居間に冬の蠅ひあた

熊本県熊本市

芥川 卓

激戦を偲ぶ紅葉の田原坂

熊本県熊本市

三隅 康資

佳作

炎昼の光さざめく水面かな

大阪府堺市

宮崎 智厳

真つ直ぐに真つ直ぐに行く神の旅

熊本県熊本市

鶴田 信吾

金木せいほのかに香るコーヒー店

熊本県熊本市

佐藤 琢朗

鎮しずもれる三賢堂の散紅葉

熊本県熊本市

坂口 美穂子

投句総数 六十七句

市内 四十四句

市外 二十三句

開函日 令和三年十二月三十一日